

看護実践・キャリア 支援センター通信

2021年
10月



看護基礎教育 看護学生へのキャリア支援プログラム

Vol.22



看護実践・キャリア支援

センターでは、看護学科の学生に、看護の専門職としてのこれからの自分のキャリアを考えるためのプログラムを行っています。

今年度は新型コロナウイルス対応でリモートでの開催になりましたが、4月2日に就職前の4年生に対し、「奈良県での就職に関する説明」と「社会人としての基礎」の講演を行い、奈良県看護協会の平葉子会長に、「奈良モデル」など地元医療の体制や、辛い時に相談できるナースセンター等について、お話

看護部長から看護者としての将来を考える話が

いただきました。4月6日は対面で、入学時オリエンテーションにおいて、橋口智子看護部長に看護の現場で働く者の思いについて、6月9日には基礎看護学実習前の2年生に対し、同じく看護部長から看護師の資格を得ることで広がる看護のキャリア形成についてお話いただきました。

学生は、これから「大学」とは違う専門職業人として経験を積む中で、様々な困難もありますが、それ以上にたくさんのことを気づかせてくれる出会いがあります。知識と技術を高める中で魅力ある人として輝いていくために、看護実践キャリア支援センターでは、今後とも様々な取り組みで後押しをしていきたいと考えています。

看護実践教育 認定看護師と共に実践しよう！



附属病院では、様々な分野の認定看護師が実践しています。現場で働くスタッフの中には、認定看護師をめざそうと考えている方もいるでしょう。でもまだ決心ができないというスタッフに向けて、まずは認定看護師の実践を近くで共に活動しながら感じていく試みとして、本研修を企画しました。第1回では摂食嚥下障害看護分野と認知症看護分野に、第2回は皮膚・排泄ケアと集中ケア分野にそれぞれ1名の応募があり、各2日間の研修を行いました。実践者の視点で臨床現場を廻ることにより、改めて自分が看護師として現部署でどう働くかについて考える機会となったようです。



認知症ケアチームの病棟ラウンドを体験

チェンマイ大学との国際交流 国際看護論 I 講義



5月12日、医学部看護学科「国際看護論 I」において、2年前にチェンマイ大学との交流事業に参加した2名の附属病院看護師が講師を勤めました。

チェンマイ大学附属病院では、適正な人員配置をシステム化したり、患者への備品の説明や診察の予約にQRコードを活用したり、最先端のしくみを取り入れる一方、治療にハーブや吸い玉等の伝統医療を取り入れています。

講義を聴いた4年生からの「臨床現場でどんな風に補完代替医療を取り入れようとしているか」という質問に、森看護師から「清拭、足浴、手浴のような毎日必ず実施するようなケアの中にマッサージの要素を組み込むように意識して実践している」と回答頂きました。



システムに注目した高木美由紀師長



伝統医療に注目した森恵看護師



看護基礎教育 上級臨床指導者育成プログラム



指導者に必要なことは

上級臨床指導者育成プログラムでは所属部署での看護職員・学生への教育指導役として教育の企画、運営をし、その評価を行う人を育てています。今年度は6名が参加し、初日である5月27日には看護学科の石澤学科長と五十嵐教授による「指導者とは 指導者を指導することとは」の講義を実施しました。これから1年間の講義と演習を通して、看護教育のリーダー的役割を担う指導者として、スキルアップを期待しています。

地域貢献事業

メンタルヘルス研修～自分のこころがラクになる研修～



講師

精神医学講座
紀本 創兵先生



Youtube を利用したライブ配信を実施

6月19日、精神医学講座の紀本創兵先生を講師に迎え、対人援助職である看護職のメンタルヘルスの維持、向上のための研修を開催しました。

コロナ禍でストレス解消もままならない中、看護職の悩みは増加傾向にあります。講義では、まず不確実な情報が出回る中、こころをラクにする考え方や体操などの紹介の後、自分の性格診断と対処法の説明がありました。うつについても詳しく説明があり、うつが自分でコントロールできないことへの理解が、回復に重要とのことでした。

院内からは18名が出席、院外からはWebでのライブ配信で受講していただき、最大で25名の視聴がありました。

精神医学からのアプローチに、受講者からは「これまでの対応を見直す機会になった」「自分を知らうとするキッカケになった」等の感想が寄せられました。



看護実践教育 令和3年度特定行為研修

「特定行為研修」を修了した看護師は、患者の状態を見極めることで、タイムリーな対応が可能となり、「治療」「生活」の両面から患者を支えることができるようになるため、年々この研修への需要は高まっています。

本学の「特定行為研修」も6年目となり、今年度は急性期コースに3名、慢性期・在宅コースに6名の受講生を迎えました。



Teamsを活用した薬理学演習

4月に予定していた開講式は新型コロナウイルス拡大防止のため中止となりましたが、eラーニングの講義やリモートでの演習を行い、7月には対面講義を開始しました。演習では、模擬患者への問診や身体症状、フィジカルイグザミネーションにより、疾患を推察するなど実践的な内容で、受講生も真剣に取り組んでいました。9月に行われた実技試験（OSCE）にも無事合格し、10月からは臨地実習が始まりました。今後も関係機関と協力し、修了に向けて研修が滞りなく行われるようサポートしていきます。



フィジカルアセスメント演習

令和4年度 特定行為研修 受講生募集中

詳しくは 奈良県立医科大学ホームページをご覧ください（書類提出10月25日締切）

地域貢献事業

ストーマケア研修～ストーマケアのキホン～



臨床現場からの要望が高いストーマケアの研修を今年度も実施しました。

7月10日の研修には外部からの参加もあり、基本の講義後に模擬ストーマへのパウチの取り外しなどを体験しました。疑似便を扱うことで、取り扱い時の注意点がよく分かり、患者の視点や思いの一旦を知ることができたようです。

8月21日には院内の新生児を扱う部署の看護師の参加もあり、ベビー対象の演習も行いました。

ストーマケアが求められる場面は救急看護の場面でも増えています。ストーマケアの知識と技術の向上を期待します。



肌の弱い新生児につけるには…



ストーマの基本を学ぶ



患者側の視点でストーマを見る



地域貢献事業

患者ケア研修～妖怪人間ベムは永遠に笑わない～

昨年も熱い語りが好評の京都大学大学院の佐藤泰子先生に今年もお越し頂き、7月17日に研修を開催しました。

「患者に向き合う・寄り添う」という、昨年に触れられた内容からさらに踏み込み、苦しんでいる患者がなかなか発することができない状況から「言の葉」が熟して落ちてくるまで待つというコミュニケーションや、答えがないことを受け入れ、ただ患者のそばにいて力になるという看護のあり方が、答えのない看護実践の中で悩んでいる受講者の心に響いたようです。

人と人との間にあるものが生きる意味をつくる。その間を埋めるために、どのようなアプローチが力となるのか、改めて考えさせられた研修でした。



講師

京都大学大学院
佐藤 泰子先生



そこにいることが力になる

地域貢献事業

高齢者意思決定研修～高齢者の意思決定支援を考える～



講師

奈良県立医科大学
看護学科 成人慢性期看護学
教授 田中 登美先生



患者の意思を尊重するとは…

9月4日、本学看護学科成人慢性期看護学教授でがん看護専門看護師である田中登美先生を講師に、高齢者の意思決定支援についての研修を開催しました。

講義では、高齢の場合に本人の意志よりも家族の思いが優先されがちな問題点等が話されました。

その後、受講生から寄せられた事例を元に講義の内容を念頭に置き、グループワークを行いました。異なる施設で働く看護師の意見を聞くことで、「各々の施設での悩みや考えなどが共有できて現状がよくわかった」「意思決定を節目節目で確認し、その中でも本人・家族ともに思いが変わることは当たり前のことと受け入れることが必要」等、意思決定の考え方や流れについて勉強になったとの意見が聞かれました。

今後のセンター事業

- 信頼関係構築のための基礎知識・技術研修 9/27、10/7、21、11/4、18、12/2(全6回)
- 学生へのキャリアデザインプログラム(4年生対象 講演会):令和3年12月2日(木)13時～14時30分
- 子育て支援サロン(リモート交流会):令和3年11月19日(金)14時～15時20分
- 実習指導者・看護学科教員合同研修:令和4年1月7日(金)
- 地域貢献研修 家族看護(入門編):令和4年1月29日(土)13時30分～15時30分
- 看護学科学生と看護部若手看護師との交流会:調整中